

ブロックチェーンの活用法紹介

本人確認プロセスへの適用に期待

コグニザントジャパン FINANCE FORUMで講演

コグニザントジャパンは5月25日に東京都千代田区のベルサール神田で開催された「FINANCE FORUM」ブロックチェーン技術がもたらす金融イノベーション(セミナー)に登壇し、「ブロックチェーン技術の実践的活用」と題した講演を行った。当日は銀行、証券、保険会社などから数多くの参加者が集まった。海外事例を中心に、その活用の実態を紹介した同社金融事業部ディレクターの高橋正敏氏は「当日は保険会社各社に参加していただいた。講演後に多くの反響をいただいたので、今後も積極的に事例を提供していきたい」と手応えを語った。



高橋氏



久保田氏

「昨今、日本の金融機関の間でブロックチェーン技術に対する期待は高まりを見せているものの、実際に取り組んでいる企業はまだ少ない。そこで、講演では、同社のグローバルな知見に基づく海外でのブロックチェーン技術の活用実態について紹介し、その前提となるエコシステム確立のためのAPIについて解説した。APIは自社のソフト

ウェアの一部を公開して、他のソフトウェアと機能を共有できるようにするもの。このOpen APIには、新たなチャネルの有効化や、開発期間の短縮、効率化の促進といった効果が見込まれている。

こうした技術について同氏は、Open API導入の「ビジネス原則」として①組織の壁を越える必要があること②事業の継続性を確認すること③法令の順守を心掛けること④の3点と、技術面で気を付けるべき事項について解説した。

「KYCは、多くの金融機関が同様のプロセスを踏んでいることや、住所の証明のために日数がかかることから、ブロックチェーンの適用領域として高い関心を集めている。」

さらに、チェーンの適用領域として高い関心を集めている。ブロックチェーンを適用したKYCプロセスについて、同社が作成したデモ動画を使って解説した同氏は「現状では規制等の課題があるため困難だが、将来的には、住所や名義の変更があった場合に、一度のアップロードで口座を開設する全ての金融機関の手続きができるようになる可能性がある」との考えを示した。



ワヤイルプツル氏

「KYCは、多くの金融機関が同様のプロセスを踏んでいることや、住所の証明のために日数がかかることから、ブロックチェーンの適用領域として高い関心を集めている。」

さらに、チェーンの適用領域として高い関心を集めている。ブロックチェーンを適用したKYCプロセスについて、同社が作成したデモ動画を使って解説した同氏は「現状では規制等の課題があるため困難だが、将来的には、住所や名義の変更があった場合に、一度のアップロードで口座を開設する全ての金融機関の手続きができるようになる可能性がある」との考えを示した。

「KYCは、多くの金融機関が同様のプロセスを踏んでいることや、住所の証明のために日数がかかることから、ブロックチェーンの適用領域として高い関心を集めている。」

さらに、チェーンの適用領域として高い関心を集めている。ブロックチェーンを適用したKYCプロセスについて、同社が作成したデモ動画を使って解説した同氏は「現状では規制等の課題があるため困難だが、将来的には、住所や名義の変更があった場合に、一度のアップロードで口座を開設する全ての金融機関の手続きができるようになる可能性がある」との考えを示した。

「KYCは、多くの金融機関が同様のプロセスを踏んでいることや、住所の証明のために日数がかかることから、ブロックチェーンの適用領域として高い関心を集めている。」

さらに、チェーンの適用領域として高い関心を集めている。ブロックチェーンを適用したKYCプロセスについて、同社が作成したデモ動画を使って解説した同氏は「現状では規制等の課題があるため困難だが、将来的には、住所や名義の変更があった場合に、一度のアップロードで口座を開設する全ての金融機関の手続きができるようになる可能性がある」との考えを示した。